



前川耀男 練馬区長メッセージ

～東日本大震災4年目の3・11にあたり～

と き 3月11日(水)発表

東日本大震災から4年目の3月11日にあたり、まえかわあきお前川耀男 練馬区長は、メッセージを発表しました。

本日で、東日本大震災の発生から4年が経過しました。練馬区内には、現在も129世帯335人の方が避難生活を余儀なくされています。また、区では区職員2人を宮城県亶理町に派遣して、引き続き支援を行っています。

東日本大震災4年目の3・11にあたり

本日で、東日本大震災の発生から4年になります。

改めて、お亡くなりになられた皆様に心から哀悼の意をささげます。また、今なお、避難生活を余儀なくされている方々をはじめ、被害を被っている多くの皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

宮城県亶理町への職員派遣など、引き続き被災地の復興を支援してまいります。

防災は、安全・安心な区民生活の大前提であり、行政の最も基本的な役割の一つです。災害発生時には、区民の生命と財産を守り、被害を最小限に抑えるため、私自身のリーダーシップの下、区民の皆様や関係機関と力を合わせて、危機に立ち向かってまいります。

平成27年3月11日

練馬区長 前川耀男

練馬区では、福島県や宮城県から区内での避難生活を余儀なくされている129世帯335人（H27.3.11時点）に対して、コンサート等のイベントへのご招待や、自転車の貸出し、図書館利用など避難生活をサポートしています。

また、練馬区は発災後から宮城県亶理町へ避難所運営支援など延1,000人を超える職員を派遣しました。現在も、土木職の課長級職員1人と事務職の主任職員1人が、亶理町の復興まちづくりや福祉の分野で活躍しています。